

評価結果概要版



平成28年度

居宅介護支援

利用者調査とサービス項目を中心とした評価手法

法人名称	社会福祉法人至誠学舎東京
事業所名称	吉祥寺ナーシングホーム指定居宅介護支援事業所
事業所所在地	東京都武蔵野市吉祥寺北町2丁目9番2号
事業所電話番号	0422-20-0857

事業者の理念・方針

理念・方針	
事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）	法人理念『誠の心』 倫理綱領 「真心を込めた丁寧な福祉サービス」 本物を追求し、奉仕の心をもって仕事をすすめる創設の精神を活かします。 「ご利用者・家族との信頼による絆」 サービスを通じて世代を超えたつながりを大切にします。 「福祉コミュニティの協創」 私たちの事業を地域の財産と考え、その価値の向上に努めます。 「仕事を通じた職員の自己実現」 自らの専門能力の向上を図り、互いを活かしあう職場にします。

全体の評価講評

<p>特に良いと思う点</p> <ul style="list-style-type: none">・サービス担当者会議には関係者の参加を促し、総合的な支援に繋がるよう努めている 利用者のニーズに合わせてサービス担当者会議で協議している。会議には利用者・家族の参加はもちろんのこと、主治医など医療関係者の出席も積極的に声をかけている。会議は必要に応じ柔軟に開催している。さらに、緊急の場合など関係者への招集は迅速に行っている。虐待ケースの対応に力を入れており、専門的知識も必要になることから、積極的に外部研修にも参加している。・毎朝のミーティングやネットワークを活用し、職員間での情報共有を深めている 前日にあった出来事や担当する利用者に関する情報共有の場として、毎朝のミーティングを充実させ、内容を業務日誌に記録している。その日の職員間の動きの他、担当しているケースで疑問が生じた事や解決に向けて悩んだ事等を上司から指示を受ける場にもなっている。共有する情報はネットワーク上の掲示板にも掲載されており、職員がお互いに情報を共有しやすい体制が整えられている。・羞恥心への配慮や、利用者・家族の意向を尊重した対応に努めている 羞恥心に配慮した対応としては利用者、家族の意向に応じて、同性、または異性の担当職員を選んで対応している。特に排泄や入浴などの事柄は日常の会話や各サービス事業所からの情報、家族からの情報で柔軟に対応できるように配慮している。利用者の自立支援に資することや生活するうえで必要な事柄であっても利用者やご家族が「ノー」と答えた場合は無理強いせず、課題として持ち越して対応するようにしている。 <p>さらなる改善が望まれる点</p> <ul style="list-style-type: none">・介護支援専門員として自信をさらに高めていきたいと考えている 事業計画において、ケアマネジメント力の向上を重点課題として掲げている。職員勉強会の実施、毎朝のミーティングでの情報交換、外部研修への積極的な参加、在宅介護支援センター事例検討会への参加などにより、育成を図つ
--

ている。今後もこれらを継続し、介護支援専門員として自信をさらに高めていきたいと考えている。

・**外出時に災害が発生した場合の対応方法を明確にしていきたいと考えている**

利用者の安全の確保・向上を図るため、各種の手順書を作成し、そのなかで役割分担を明確にしている。感染症及び食中毒予防指針や事故発生防止のための指針を策定しグループウェアを通じて情報の共有化を図っている。職員は外出することが多いが、外出時に災害が発生した場合の対応方法を明確にしていきたいと考えている。

・

事業者が特に力を入れている取り組み

・**施設行事であるさつき祭では相談ブースを設け、情報提供・相談に応じている**

地域住民の方に事業所の役割を理解していただけるよう、施設行事であるさつき祭では相談ブースを設け、情報提供・相談に応じている。その際には、広報誌の配布、施設見学会等を行い、親しみやすく役に立つ事業所として活用いただけるよう広くアピールしている。併設する在宅介護支援センターや地域包括支援センター、地域の居宅介護支援事業所等との連携を図る中心的な役割を担っている。

・**利用者や職員の安全確保について、手順書や研修などを通じて意識を高めている**

感染症及び食中毒予防指針や事故発生防止のための指針を策定しグループウェアを通じて情報の共有化を図っている。協力医療機関や主治医との連携に最善の努力をしている。職員は外出することが多いが、これまで移動中の事故は発生していない。職員は、感染症予防の研修に参加するとともに、流行前には予防注射の接種、流行時にはマスクの着用をしている。

・**利用者の言いたいことを言葉や態度・状況から的確に把握できる力を磨いている**

毎朝8時半から1時間ほど情報交換と共に勉強会を継続している。利用者の変化など日々の情報共有は欠かせない。特に意見を言い出しにくい利用者のための援助技術を磨いている。支援に生かせるよう、今年度はファシリテーター研修を受けている。利用者が思ったことを遠慮なく発言できる場を提供できる技術として学んでいる。また気が付いた点や感じたこともアセスメント表に漏れなく記載するようにしている。

利用者調査結果

有効回答者数/利用者総数

6/15

はい どちらともいえない いいえ 無回答・非該当

1. ケアプラン立案時に、利用者や家族の状況や要望を聞かれているか	83.0%	16.0%	0.0%	0.0%
	どちらともいえない：0.0% 無回答・非該当：0.0%			
2. ケアプランについての説明は、わかりやすいか	33.0%	50.0%	16.0%	0.0%
	無回答・非該当：0.0%			
3. サービス内容は、利用者の要望が反映されているか	66.0%	16.0%	16.0%	0.0%
	無回答・非該当：0.0%			
4. ケアマネジャーの接遇・態度は適切か	83.0%	16.0%	0.0%	0.0%
	どちらともいえない：0.0% 無回答・非該当：0.0%			
5. 病気やけがをした際のケアマネジャーの対応は信頼できるか	66.0%	16.0%	16.0%	0.0%
	どちらともいえない：0.0%			
6. 利用者の気持ちを尊重した対応がされているか	66.0%	16.0%	16.0%	0.0%
	無回答・非該当：0.0%			
7. 利用者のプライバシーは守られているか	83.0%	16.0%	0.0%	0.0%
	いいえ：0.0% 無回答・非該当：0.0%			
8. サービス内容に関するケアマネジャーの説明はわかりやすいか	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	いいえ：0.0% 無回答・非該当：0.0%			
9. 利用者の不満や要望は対応されているか	66.0%	16.0%	16.0%	0.0%
	無回答・非該当：0.0%			
10. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	50.0%	33.0%	16.0%	0.0%
	無回答・非該当：0.0%			